

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松義人

印刷所：アド・アール株式会社

定 価：一部 30 円



2017年11月20日

第414号

「貧しい人々は幸いである」

理事長 稲松義人

標題の聖書の言葉は、ルカによる福音書の中のイエスの語った説教の冒頭である。聖書には逆説的な表現があちこちにあるが、これもその一つであろう。常識的には、貧しいことは不幸なことだと思われる。お金がすべてではないと主張する人は多くおられると思うが、その日の生活にも困るような貧乏がいいと思う人はよっぽどの変わり者であろう。同じエピソードを、マタイによる福音書では「心の貧しい人々は幸いである」と伝えている。私は聖書の専門家ではないので、この「心の貧しい」ということが具体的にどのような状態の人たちを指しているのか想像するしかないのだが、物質的に貧しい生活の中でも心が豊かな人、日本的なイメージでは「清貧」をよしとする人たちはいるかも知れないが、心まで貧しくなってしまうそれはよいことなのだろうかと思ってしまう。あるいは、たとえ経済的に豊かであったとしても「心が貧しい」とすれば如何なものかと思ってしまう。

聖書は、イエスが自分は罪人を救うために来たといい、病人を癒すために来たと言ったことを伝えている。そして、新約聖書は、イエスがそれらの人々に眼差しを向け、声を掛け、手を差し伸べてき

たエピソードを伝えている。イエスが出会ったこれらの人たちは、今の時代でいうと、社会福祉の対象となる人たちではないかと思う。

小羊学園には、浜松市内に「アグネス」と「アグネスみなみ」の二カ所の相談支援事業所があり、静岡市にはつばき静岡内に相談支援事業所「アグネス静岡」がある。それぞれの相談員のところには、様々な相談が寄せられ、相談員たちは、それらの人たちの相談に耳を傾け、助言をし、あるいは必要とする福祉サービスを紹介する。次のステップにつないであげることができればよいのだが、どう助言していいのか行き詰まり、求めておられるサービスにつなげてあげられないケースが少なくない。それらの人たちに十分な支援ができないことで相談員たちは心を痛める。

施設の中で、実際にサービスを提供する支援員たちにも苦労はあるが、その日の自分の役割を精一杯果たすことで感じる苦労は、まだ自分の仕事のやりがいを感じ易いかも知れない。今日が不十分であれば、次にはさらに工夫して支援したいと前を向けるような気がする。

相談員の仕事は、相談に来られた人の課題を解決するための道を示し、居場所のない人たちの受け入れ先を捜すことである。見つけるまで、その人たちと一緒にさまよい歩いているようなものかも知れない。だから、自分自身が支えられている

という実感をもてなくなり、孤立感を感じてしまうと、相談員自身が、道に迷い、不安を感じてしまい、「貧しい人々」に寄り添っているうちに、自分が「貧しい人」になってしまっているのではないだろうか。

そのようなときに、イエスは「貧しい人々は幸いである」という語り掛けておられるのではないだろうか。たとえ貧しくても神さまがともにいてくださる。あなたは決してひとりぼっちではない。どんなときも希望を捨てる必要はない。そんな呼びかけを「あり得ない」と否定するか、「そのとおり、信じてみよう」と思うかが、その人の生き方の岐路となるのではないかと思う。

私たちの仕事は、今の時代の世の中で、限界のある人の知恵と技を駆使して、支援を必要とする人たちが、希望をもつて歩みだせるように支援することである。しかし、そこに不思議な導き与えられるときに、決してその努力はむなしいままでは終わらないと信じたい。

今年もクリスマスを迎える季節になった。ルカによる福音書は、キリストの誕生を知らせる天使が、「その地方で野宿しながら夜通し羊の群れの番をしていた羊飼いたち」に現われたと伝えている。今年のクリスマスは、この地域のどのような暮らしをしている人たちのところに天使たちが現れるだろうか。今年もまた、クリスマスの夜の不思議な出来事に思いを巡らしてみたい。

在宅支援の実情を考える

短期入所施設の現状

小羊学園には3つの障害者支援施設とグループホームで短期入所事業を実施しています。在宅生活を継続していくうえで、二時的に宿泊が可能な短期入所は重要な役割を果たしていますが、それ故ニーズも高く、希望通りにお受けできない現状があります。今回は、短期入所事業の担当者には、各施設の現状を報告してもらいます。

「三方原スクエア」

次長 舟橋 暢

三方原スクエアは、成人部30人、児童部20人の入所施設であり、6人のユニット内で1人の短期入所者をお預かりできる形をとっています。従って、1日で成人部6人、児童部4人合計10人の短期入所利用者及び日中一時利用者をお預かりすることができま。休日のご希望が多く、土曜日の朝9時頃からお預かりして、日曜日の夕17時頃にお帰りになる方がほとんどで、平日は、学校から学校の間の夜間の受け止め、生活介護事業所から翌日の生活介護事業所間の短期入所の希望も多くなり、特に成

人部は、平日、休日含めて、短期入所利用者がご利用されていないユニットが殆どない状況となっています。

児童部、成人部合わせて、利用の希望は、年々増え続けています。児童部は、放課後等デイサービスの土曜日稼働の増加に伴い若干、増加の緩やかさを感じますが、成人部は、契約者の増加により、今まで平均的且つ公平にお受けできていた短期入所が明らかにお受けできなくなってきました。その一番顕著な理由として、前述した利用契約者の増加です。当然ながら人は年を重ねていきますから、特別支援学校を卒業した段階で、それまで児童部をご利用であった方が成人部との契約となり、スクエアを利用されているいなかった方たちも同様に18歳を超えれば成人部と短期入所の利用契約を始めます。しかし、短期入所を行っている施設が増えているわけではありませんからレスパイトを含めた短期入所の受け入れ回数を減らして平等に受け入れを保つ形をとるしかなくなっていくのです。月に1度は受け入れられてきた利用者も2～3カ月に一度の利用になり、利用者(保護者)の期待応えられなくなりました。

まっている現状があるのです。

さて老障介護という言葉をご存じでしょうか。簡単に言えば「高齢の親が障がいのある子どもの介護をし続けること」と言ってもよいでしょう。三方原スクエア成人部短期入所も、この老障介護問題に直面しています。実態としては、在宅福祉・地域福祉の拡充による在宅生活の長期継続。医学等の高度化に伴う寿命の伸び。そして、前述した障害者支援施設の新設不認可やグループホームの伸び悩みから、高齢になった親が障害のある子供を在宅で支え続けること自体、困難なケースが非常に多くなってきました。親の介護疲れや親に病気が見つかり入院、手術が必要となり、必然的に長期の短期入所を利用されるといった方も年々増加しています。そうすると、予約受付をしていた方をお断りせざるを得ない状況が発生し、断られた方は疲弊してしまうと云う悪循環に陥っているのです。

これらは、スクエア成人部の問題だけではなく、皆さんご存知の障害者支援施設すべてに共通して言える課題です。この課題を打開するために現在、障害福祉サービス事業所と介護保険事業所が一体的に運営できる仕組み「共生型サービス」の取り組みが始まっています。今ある二ードを守り抜くためには、垣根を越えた更なる仕組みや発想の転換が求められているのです。

「支援センターわかぎ」

支援課長 渥美 雅世

【支援センターわかぎの概要】

入所定員…男性19名、女性21名、

短期入所定員…8名(男性5床、女性3床)日中一時支援…6名程度の枠の中で受け入れを行っております。利用者調整に関しては、改築してから4年目を迎えて、年々、利用希望者が増えている現状があります。以前は容易に調整出来ていましたが、現在は、1か月、80名以上の利用希望者がおられ、その中で調整しています。

短期入所の利用ニーズが高まったことで、今年度4月より、支援センターわかぎに隣接して建てられている、グループホームカトレアでも短期入所事業を開始致しました。入居者は7名、短期入所定員は1名の枠で受け入れを行っております。こちらの特徴としては、少数の家庭的な雰囲気の中で受け入れを行っており、希望者も日に日に増し、調整が難しくなっている現状があります。カトレアでの利用に関しては、夜勤、宿直体制の併用となるため、充実した夜間支援が難しいという課題があります。

【最近の利用傾向】

以前より、保護者の方々の急用や、負担軽減のためのレスパイト機能を果たしてきました。以前と異なった傾向としては、高齢化に伴い、養育者による支援

が難しくなったり、家庭内で多重介護となつてしまったりするケースも多くみられるようになってきました。また、不安定になり、一時的に在宅支援が困難となつてしまつたり、こだわりが強くなつてしまつたことで生活リズムが崩れてしまつたケースも多く見られます。それぞれの家庭で苦労されている様子を踏まえ、優先順位をつけ調整をさせていただいています。

【現在の課題】

改築後より、環境整備が整つたことで、さらに利用のニーズが高まりました。そして、障害者自立支援法の制定以降、相談支援事業所の介入により、ご本人、ご家族の困り事を拾い上げ、具体的なサービスの提案がされてきました。そのサービスの提案の際、同法人の相談員だけでなく、浜松市内の様々な相談支援事業所から多くの希望依頼が来るようになりました。それにより、改築以前より家族の負担軽減や、今後の急用時に備え、環境に慣れるために定期的に利用をされていた方々の利用希望の受け入れが難しくなっています。その状況が続くことで、養育者が疲弊することを踏まえると、状況判断をし、適切に受け入れ調整を行っていくことが重要だと考えています。それが頭を悩ませる一つの要因ではあります。

今後も支援センターわかぎとしては、地域の役割として、課題を捉え、出来る

限り、在宅生活の継続のためにも、一時的な支援の重要性をスタッフと共有していき、お手伝いをしていきたいと思っております。



「つばさ静岡における短期入所の現状」

支援課長 鈴木秀美

つばさ静岡の事業の中で短期入所事業(ショートステイ)は、在宅の重症心身障害児者を支援する上で重要な役割の一つであります。現在、63名の方が長期入所しており、短期入所定員は10名になつております。それぞれのユニットには、入所者8名〜13名で各ユニットに短期入所1名〜3名の方を受け入れさせて頂いております。

そのうち、医療的ケア(人工呼吸器、経管栄養等)を必要とされる方が4名、非医療的ケア(経口摂取)の方が6名ですが、ほぼ満床の状況にあります。2ヶ月後の利用申し込みを毎月1日〜10日までにしていただき、そこから調整をさせて頂いております。

つばさ静岡も開所から12年が経ち、以前は週末や祝前日、学校の長期休みや行事等の時期に、お申し込みが多いイメージでしたが、最近は平日も含め、一日10名に対して二倍の方がお申し込みをされている日も少なくありません。

また、御利用に際しての事情もお伺いさせて頂いておりますが、レスパイトの他に御兄弟の用事と並んで親御さんの体調不良や、それに伴う治療、入院、手術等、また祖父母の通院や介護と理由も様々になつてきております。その為、調整をさせて頂く際に、何を優先にするのかという難しさも感じており、毎月頭を悩ませているのが現状です。緊急時の対応も受け付けてはおりますが、前述の様な理由でお預かりしている中で更に、優先度を図る難しさも同様なのが実情であります。このような現状の中で、お断りをせざる負えない状況も増えてきている為、新規の御利用についても随時受け付けさせて頂いておりますが、毎月2名〜3名の方と契約をさせて頂いても、中々お試しまでの間が長く、すぐに利用開始とはならない事もあり、現在

は毎月1名までの新規受け入れの形で調整をさせて頂いております。(現状来年度の3月までの予約が終了しております)

在宅の重症心身障害児者を支援していく上で、短期入所は重要な役割ですが、このような状況の中、今後どう支援していくべきなのかが大きな課題であります。課題を解決する為に、行政も県内の病院に対して、在宅の重症心身障害児者の短期入所受け入れを働きかけております。

今後も、つばさ静岡としても他事業所との連携の中で在宅の重症心身障害児者及び御家族を含めた支援を考え、課題解決に向けて努めて行きたいと思っております。

*写真は、介護用リフターを設置している短期入所用居室になります



三方原スクエア秋祭り 開催

心配された雨も朝には上がり、11月11日(土)第4回目となる三方原スクエア秋祭りが開催されました。

午前中、利用者のカラオケ大会や新人アトラクションから始まり、昼からは恒例のバザーや模擬店、小羊デイケアホームのクッキーの販売や聖隷クリストファー大学のボランティア、コーヒESHOPP啓による喫茶を楽しみました。昼からのイベントは、各ユニットにて浜松奇術会によるマジックショーが行われ、外のイベント会場では、恒例になりました聖隷クリストファー高校の吹奏楽演奏、はつぴー太鼓、みをつくし太鼓による和太鼓演奏が盛大に行われました。当日、強風によりテントが設置できないアクシデントはありましたが、楽しいひと時を皆で過ごすことが出来ました。



クリスマスのご案内

待降節を迎え、クリスマスを心待ちにしながら準備を進めています。今年各施設のクリスマス開催日をご案内します！



*三方原スクエア

キャンドルサービス 12 / 15 16 : 30
記念礼拝 12 / 23 10 : 45

*支援センターわかぎ

記念礼拝 12 / 20 13 : 30

*つばさ静岡

記念礼拝 12 / 23 10 : 45

*小羊デイケアホーム

記念礼拝 12 / 21 13 : 00

*マルカート

記念礼拝 12 / 22 13 : 30

*オリーブの樹

記念礼拝 12 / 22 11 : 00 (浜北教会)

*わたぐも

記念礼拝 12 / 16 10 : 45

*ぱびるす

記念礼拝 12 / 22 11 : 00

日本ロック 鉄板焼き会にご招待いただく

支援センターわかぎ・ひまわり

9月23日浜北区横須賀に本社がある株式会社日本ロック様の鉄板焼き会にご招待いただき、利用者・職員10名がお邪魔しました。この鉄板焼き会は、障害のある人と社員や関連企業と交流を目的に、20年以上前から行われているようです。今回、ご縁があってお仲間に加わらせていただきました。会では豪華な牛肉や焼きそばなどを振舞ってくださり、お腹いっぱい・心もいっぱいで大満足でした。

こうした機会を設けて下さった、日本ロックの皆さまにこの場をお借りし、厚く御礼申し上げます。



編集後記

今回は短期入所の現状を各施設の担当者に報告いただいた。在宅児・者のセーフティネットとして、地域の拠点施設として、その役割を担っているが、拡大するニーズにキャパシティが超えている現状が垣間見える。市内にある他法人の障害者支援施設も同様であり、全国的にも同じ課題を抱える地域が多いようだ。次年度報酬改定の概要では、ロングショート(長期利用者)にもメスを入れる内容が盛り込まれており、さらに先行き不透明感が増し、利用者・経営者ともに不安が募る…

寒さ厳しくなりました。皆様どうぞお身体ご自愛ください。

(F)

小羊学園を支える会

2017年度 寄付金報告

10月 受付分 185,300円 (16件)
累計 1,592,929円 (101件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局(鈴木)

小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337